

令和4年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期（オンライン） 中間レポート(2)

古賀杏奈

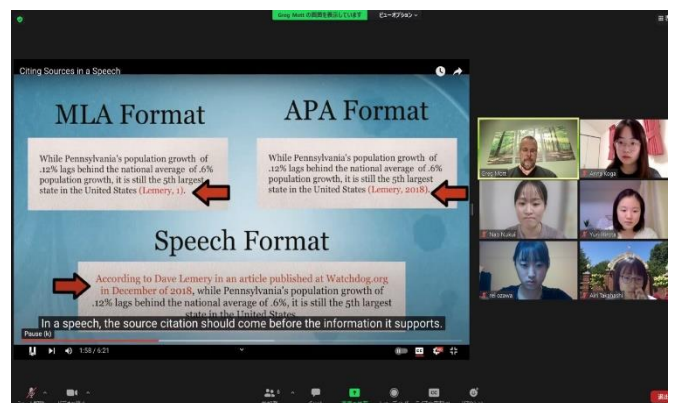
前回の中間レポートを書いたから2か月、8月からOSGSプログラムに参加させていただいてから早くも4か月が過ぎてしまいました。プログラムは終わりに近づき、探究の成果を発表するファイナルプレゼンテーションもいよいよ来週末に控えています。

今回のレポートでは、前回のレポートからの2か月間に私が経験したことをお伝えしていきます。拙い文章になってしまいますが、最後まで読んでいただければ嬉しいです。

授業について

プログラム後半である、この2か月間の講義ではファイナルプレゼンテーションに向けて効果的な話し方やスライドの作り方などを学びました。私にとってファイナルプレゼンテーションは、ネイティブの前で英語のフォーマルな発表をする初めての機会であることに加えて、オンラインでのパフォーマンスということも、大きな不安を感じていました。しかし、講義の中でどのような構成・話し方・スライドのデザインがオーディエンスにとってわかりやすいのかを、実際の例やレクチャー動画などを見ながら学び、今では程よい緊張感をもって本番に向けた準備をすることができています。

スライドのデザインや探究の結論に関しては、グレッグ先生が講義の中で一人ひとり(各ペア)のものを見てアドバイスをしてくださりました。行き詰まっていた部分や自分の気づかなかった改善点についての指摘を通して、「オーディエンスのための」プレゼンに必要なスキルを身につけることができましたと思います。振り返ってみると、今までの私のプレゼンテーションは、オーディエンスのためというよりも、自分の話したいことを話さきめるためのプレゼンテーションになってしまっていたように感じます。今回のファイナルプレゼンテーションに限らず、様々な場面で聞き手と効果的にコミュニケーションをとっていくうえで、聞いてくれる人のために話す、見せるスキルは非常に役立つものだと思います。



プレゼンの中での引用・出典に関する講義の様子

パートナーとの協働について

この2か月の間、私たち参加者は講義以外の時間でもそれぞれのパートナーと協力してファイナルプレゼンテーションの準備を進めてきました。私とパートナーの Shelby はおよそ2ヶ月前という比較的はやい段階から話し合った内容をまとめ、スライドの作成など、プレゼンテーションの準備に取り掛かっていました。その中ではもちろん、Shelby の大学の試験や私の課題の提出など、お互いにこのプログラムだけに集中することがなかなか難しいときもありました。そのようなときには、余裕がある一人がもう一人を補うという協働のスタイルを互いに意識したことで、計画的にプログラムに取り組み続けることができました。年の離れた大学生との協働はプログラム開始時の私にとって不安要素の一つでしたが、今では年の差を超えて協力できていることに感動しています。

しかし、協働を通して難しさを感じた部分もありました。私たちは、スライドを分担して作成する際、事前に細かいことはあまり決めていませんでした。ただ、お互いに内容がだんだんと出来上がってきたときに、スライドのデザインに関してなど、個人の感覚が関わる部分においての意見をどこまで出していいのかが私にとって難しいと感じたポイントでした。一般的に、日本人は他国の人よりも自分の意見を出すことに難しさを感じやすいといわれることがありますが、実際に、相手が自分と同じ環境で育っていないことを理解していても、相手は自分の意見を聞いて気を悪くするだろうか…などと考えてしまい、意見を出すことの難しさを身をもって感じました。

もしかしたら、このレポートを読んでくださっている方のなかで、同じ経験をされたことがあったり、これから OSGS プログラムに参加したいと思っている方が、プログラムの参加を通して実際に同じ経験をされたりするかもしれません。今回私は、このような場合にどうすれば良いのかに関する答えをはっきりと見つけることができませんでしたが、このレポート全体を通して、OSGS プログラムや海外の方とのコミュニケーションについて、少しでも「そんなことがあるんだな」という皆さんの参考になればうれしいです。

最後に

書いているうちに、どんどん書きたいことが出てきてしまい、思っていたよりも長いレポートになってしまいましたが、中間レポート(2)はここまですりやまします。

次回の最終レポートでは、ファイナルプレゼンテーションについてや、これまで紹介できていなかった埼玉親善大使としての活動もお伝えしていきたいと思っています。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。